

令和3年度の委員会運営方法について

1 付議事件

運動による介護予防等あらゆる世代の健康づくり及び大規模スポーツイベント開催やスポーツ関連施設の整備等スポーツの振興に関すること。

(参考：過去の特別委員会における調査・研究内容)

【令和2年度：調査・研究テーマ】

時代の変化を見据えた、誰もが取り組める新しい運動・健康習慣について

【令和元年度：調査・研究テーマ】

ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピック等のスポーツイベントを契機とした日常の健康づくりについて

【平成30年度：調査・研究テーマ】

スポーツを通じた街づくり・地域コミュニティの活性化について

【平成29年度：調査・研究テーマ】

スポーツができる環境づくりを初めとした大規模スポーツイベントに向けた機運の盛り上げについて

【平成28年度：調査・研究テーマ】

スポーツができる・スポーツに親しめる環境づくりについて

2 市会運営委員会（平成24年5月8日開催）での特別委員会運営方法に関する決定事項

- ・ 付議事件の調査・研究を目的として、委員間の意見交換、事例視察や参考人意見聴取などを行う。
- ・ 委員会報告書は、付議事件に対する結論や一定の方向性を得たとき又は議員任期が満了するときに議長に提出するものとする。

3 令和3年度調査・研究テーマ案

(1) 調査・研究テーマ

トップアスリート・トップチームから始まるスポーツを通じたまちづくりについて

(2) テーマの選定理由

本市では、日常でスポーツに親しむ環境づくりを進めるとともに、トップチームの試合やトップアスリートが参加する世界大会も開催されるなど、幅広くスポーツに接する機会の充実に取り組んできた。

本特別委員会においてもこれまで、スポーツイベントを契機とした日常の健康づくりや、時代の変化を見据えた、誰もが取り組める新しい運動・健康習慣などについて、調査・研究を進めてきた。

一方、世界や他都市に目を向けると、同ジェリアの中で複数のトップチームが活動していたり、競技場では、そこで行われた大会やチームの歴史を博物館のように見学できる、スタジアムミュージアムのような施設が設けられ、試合がなくても市民が楽しめる場となっている例がある。

また、宿泊可能な大規模運動施設によるスポーツ団体の合宿誘致や、トップアスリートの学校教育への積極的な参画があるなど、スポーツ施策については、様々な視点から発展する可能性があると考えられる。

以上のことから、本市では年齢や性別、障害の有無に関わらず、多様なかたちでスポーツを楽しめる環境づくりを進めるべく、トップチーム・トップアスリートから始まるスポーツを通じたまちづくりについて、調査・研究を行う。